



第33回日本臨床工学会 共催学術セミナー12

日時

2023年7月23日（日）
11:50 ~ 12:40

会場

第5会場
（広島国際会議場 B2F コスモス2）

テーマ

血液温度管理の重要性

座長

田中 昭彦 先生
（医療法人創和会 重井医学研究所附属病院）

演題1

血液温度のモニタリングと透析液温度設定
南 正雄 先生
（医療法人社団 いでクリニック）

演題2

東レ・メディカル社製透析用監視装置TR-10EX
に搭載されたBTS機能の使用経験
演者 守澤 隆仁 先生
（医療法人あけぼの会 花園病院）

当セミナーは整理券制です。
本会参加登録時に申し込みをお願いいたします。
【受付期間】2023年5月22日（月）～ 無くなり次第終了

共催

第33回日本臨床工学会及び2023年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会
東レ・メディカル株式会社

南 正雄 先生（医療法人社団 いでクリニック）

血液温度のモニタリングと透析液温度設定

透析液温度を36℃に設定して透析治療を行うと、血液温度がその温度まで達成するのに約1.5～2時間を有する。また、個々の患者に対して、高めとなる透析液温度の設定は、起立性低血圧を発症させたり、火照り、倦怠感、透析中の血圧低下を引き起こす原因ともなり得る。透析治療中の血液温度の上下変動が末梢血管を開いたり締まったりするように作用するものと考えられ、血液温度を上昇させないようにモニタリングしながら、患者毎に適した透析液温度に調節することは、より安定した透析治療に貢献するものと期待される。

守澤 隆仁 先生（医療法人あけぼの会 花園病院）

東レ・メディカル社製透析用監視装置TR-10EXに搭載されたBTS機能の使用経験

東レ・メディカル社製透析用監視装置TR-10EXに搭載された、血液温度追従機能（Blood Temperature tracking System：BTS）は、治療中の循環血液温度を測定し、その変化から透析液温度を調節する機能である。12名の患者を対象として、透析液温度を37℃に設定し、BTS（開始時循環血液温度に対し、+0.5℃の変化をしたときに透析液温度を下降制御）を使用し、透析開始から終了時までの循環血液温度の変化について検証した。全対象患者の透析開始時の循環血液温度は、 35.2 ± 0.4 ℃であったが、透析終了時は 35.6 ± 0.2 ℃と+0.4℃の上昇に留めることができた。その内、4名でBTSによる透析液温度の下降制御を認めた。透析中の血液温度の安定化は血管抵抗の過度な変化を抑制し、血圧変動の安定が図れる有効な機能となることが推察され、BTSは透析をより安定して行うためのモニタリング技術の一つとして有用であると考えられる。